

～生活習慣病の早期発見・早期予防による健康寿命の延伸を目指します～

■データヘルス計画・特定健康診査等実施計画とは

データヘルス計画とは、国民健康保険の被保険者を対象に、健康診査の結果や医療情報を活用して、PDCA サイクルに沿った効果的、効率的な保健事業の実施を目指すための計画です。

特定健康診査等実施計画とは、保健事業の中核をなす特定健康診査及び特定保健指導の具体的な実施方法などを定めたものです。

データヘルス計画は、保健事業の総合的な企画をし、効果的、効率的な実施を目指す趣旨から特定健康診査等実施計画と一体的に策定します。

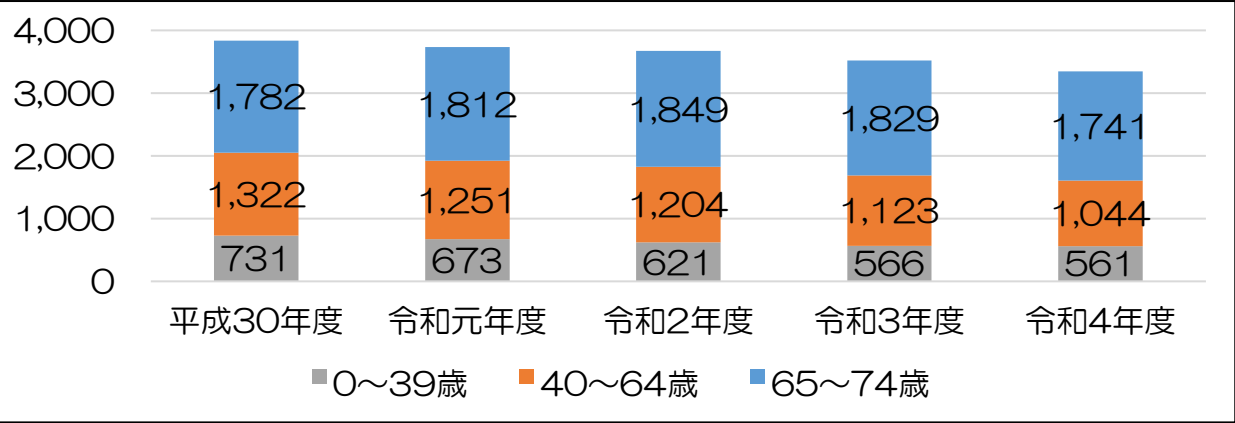
■計画期間

計画期間は、令和 6（2024）年度から令和 11（2029）年度までの 6 年間で

■保険者の現状

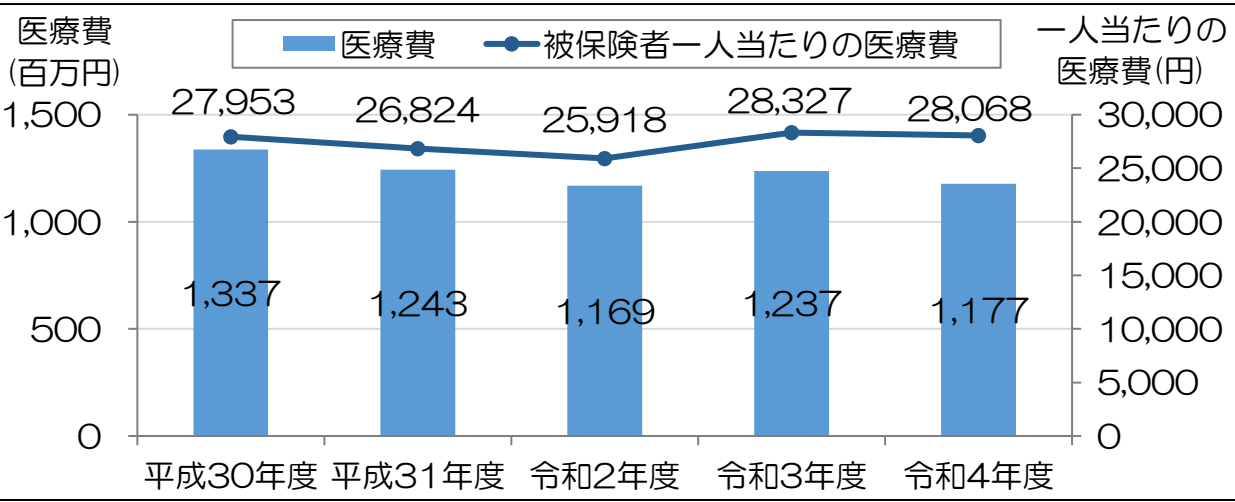
(2) 被保険者数（人）の推移（本編：P42 図表 14）

被保険者数は年々減少傾向で、65～74 歳の割合が、国と比べて 11.1%と高い状況です。

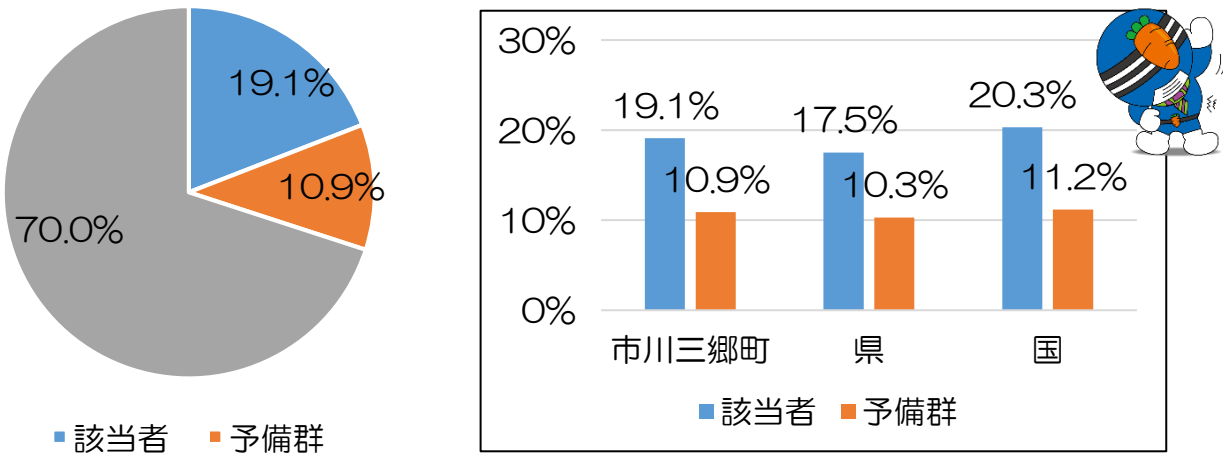


(1) 医療費の推移（本編：P6 図表 3-1）

医療費は減少傾向ですが、一人あたり医療費はやや増加傾向にあります。

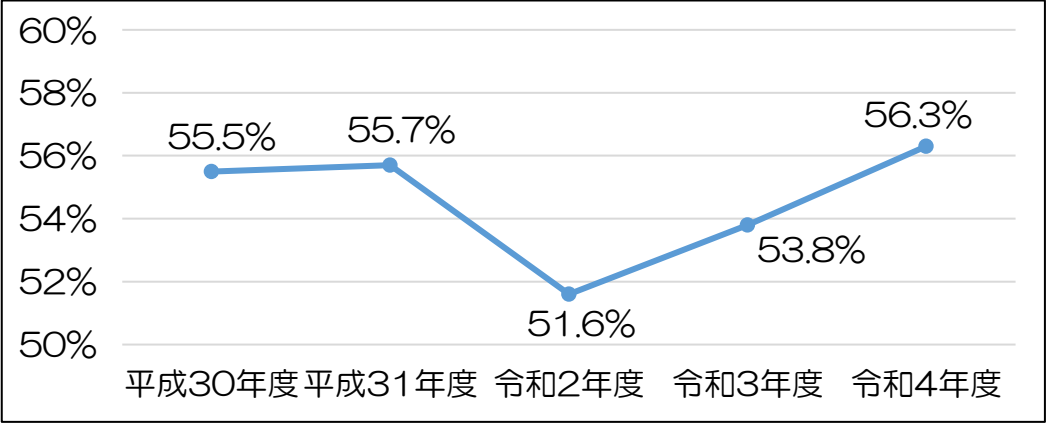


(3) メタボリックシンドローム該当者及び予備群の状況（本編：P15 図表 10）
県と比較すると、メタボ該当者及び予備群の割合が高い状況です。



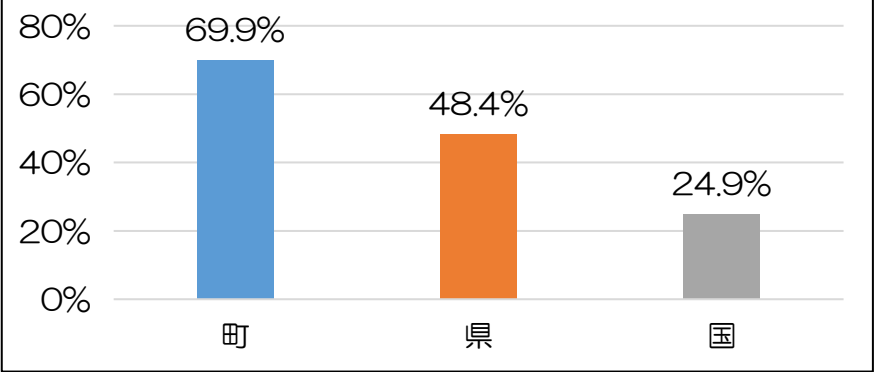
(4) 特定健康診査受診率（本編：P43 図表 15）

特定健康診査受診率は、やや増加傾向にありますが、国の定める目標値である 60%には達していません。



(5) 特定保健指導実施率（本編：P44 図表 16）

特定保健指導実施率は、国や県と比べて高く、国の定める目標値である 60%を達成しています。



※(1)～(5)「国保データベース (KDB) システム」より出典

■健康課題と対策の方向性

健康や医療情報などを数的データ(特定健康診査受診率やメタボリックシンドローム該当者の割合など)と質的データ(特定保健指導実施時における参加者の声など)にまとめ、双方のデータより次の項目を健康課題とします。

1	治療継続者であっても、高齢になるにつれ、高血圧症や糖尿病が重症化し、心臓病、脳疾患や腎不全などのリスクに繋がっています。
2	習慣的な間食、喫煙や運動機会の少なさが影響し、血糖値の高い者の割合が高く、糖尿病を発症するリスクが高くなっています。
3	早食いや飲酒機会の多さが影響し、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合が高く、動脈硬化性疾患を引き起こすリスクに繋がっています。
4	高血圧症や糖尿病患者が多く、喫煙習慣のある者や飲酒量の多い者の割合が高い傾向にあることが影響し、脳血管疾患の死亡割合が高い状況です。
5	保健指導の希望がない人や精密検査の対象となっても自己の判断で医療に繋がらない人が多く、疾病の発症リスクが高くなっています。
6	重複投与者が多く、多剤服用による副作用や薬物有害事象など体に悪影響を及ぼす恐れがあるポリファーマシーが懸念されます。

健康課題に対する対策の方向性を次のとおり設定します。

- ・特定健康診査を若い頃から受診し、高血圧症や糖尿病などの生活習慣病を予防します。
- ・特定保健指導による保健指導や受診勧奨を行うことで発症リスクを減少させます。
- ・特定保健指導による保健指導や受診勧奨を行うことで重症化リスクを減少させます。
- ・特定健康診査を習慣化させ、日常の生活習慣を見直す機会とします。
- ・特定健康診査を受けることで、COPD（慢性閉塞性肺疾患）予防や飲酒量の調整を図ります。
- ・通知や電話などによる積極的な保健指導の介入を行います。



■目的と目標

生活習慣病の早期発見・早期予防による健康寿命の延伸を目指します

生活習慣病発症予防	生活習慣病重症化予防	医療費適正化の推進
特定健康診査や特定保健指導などを通して、生活習慣病の早期発見・早期予防を推進します。	予防教室や未受診者・治療中断者への受診勧奨などを通して、糖尿病性腎症の悪化を防止し、新規透析導入者の予防を推進します。	適正受診及びポリファーマシーの防止を推進します。

評価指標	実績値(R4)	目標値(R11)
運動習慣ある者の割合	29.8%	39.0%
血圧が保健指導の者の割合	56.8%	47.0%
メタボ該当者及び予備群の割合	29.9%	26.5%
高血糖者の割合	9.4%	9.0%
糖尿病性腎症病分類悪化率(短期)	4.1%	3.5%
糖尿病性腎症病分類悪化率(中長期)	7.7%	7.0%
重複処方者数(1万人あたり)	87人	64人
多剤投与者数(1万人あたり)	11人	8人

